

## <第4302回>

目的地：雨飾山（頸城）

担当者：西村

実施日：2022年10月22日（土）～23日（日）

形式：麓宿舎泊 日帰り登山

費用：30,500円（JR往復20,880円、タクシー往復3,160円、雨飾山荘宿泊5,700円、その他760円）

参加者：7名

行程：

10月22日

JR大阪駅（8:40）→（11:14）金沢駅（11:57）⇒（12:46）糸魚川駅・アルプスロバス停（13:15）⇒（13:24）フォッサマグナミュージアム[見学]（15:00）⇒（15:40）雨飾山荘（泊）

10月23日 天気：曇りのち晴れ、その後大雨

雨飾山荘（6:00）→（8:40）中ノ池→（9:50）稜線（長野県側と合流）→（10:20）雨飾山[1963m：昼食及び休憩]1（11:10）→（11:30）稜線分岐→（12:20）中ノ池→（14:30）雨飾山荘 [入浴・休憩]（16:00）⇒（16:50）糸魚川（17:31）⇒ [金沢経由] ⇒（21:23）大阪駅

感想：

新潟と長野の県境にある日本百名山・雨飾山に登ってきました。残念ながら事前の天気予報では、終日雨模様とのことで、少し重苦しい気持ちで電車に乗り込みました。初日は特急と北陸新幹線を乗り継ぎ、糸魚川駅で下車した後、同市内の「フォッサマグナミュージアム」を見学した後、深い山の中に佇む「雨飾山荘」に宿泊しました。

翌日は朝6時に雨飾山荘を出発。いきなり急登で始まり、稜線まで険しい道が続きます。空には厚い雲がかかり、歩き始めると大粒の雨に見舞われるなど、登頂すら難しいのでは、と弱気になりましたが、元気な女性メンバーに背中を押される形で、長野側ルートとの分岐となる稜線まで辿り着きました。

稜線まで上がると登山道は急に平坦となり、天気も少し回復。最後の急斜面を登り、山頂に着くころには雲が流れ青空が大きく広がりました。そして日本海から北アルプス連峰や火打山方面迄、360度の絶景が広がります。まるで私たちの登頂に合わせるかのように、雨飾山の女神がほほ笑んでくれました。（山頂直下の登山道を上から見ると、女神の横顔に見える写真が雨飾山の宣伝ポスターになっています）

山頂で景色をたっぷり楽しんだあと、同じルートを下山。傾斜が厳しく滑りやすい山道の為、上り以上に足に力が入り、疲れも重なり時間も長く感じました。そして雨飾山荘まで、あと30分の頃、遠くで雷鳴が響き、その後猛烈な雨が降ってきました。土砂降りの中、急な山道を慎重に下り、雨飾山荘が見えた時はホッとしました。そしてタクシーを待つ間、雨飾山荘の温泉にゆっくりとつかり、山頂での晴天に感謝しつつ、疲れを癒やしました。山名に優しい響きのある「雨飾山」ですが、なかなか険しい名山でした。

（補足）

1. 地質好きの方は「糸魚川～静岡構造線」にピンとくると思います。太古の昔、日本列島は二つに分断され、その後の火山活動で数千メートルの溝が埋まった北端が糸魚川です。そのような経緯から、糸魚川には地質の博物館である「フォッサマグナミュージアム」が建設され、「石」をテーマに町興しをしているようです。NHKのブラタモリで、タモリさんも訪れています。
2. 雨飾山には長野県側と新潟県側の2つのルートがあります。今回登った新潟県側のルートは、距離は短いものの、急登が連続しかなり険しい山でした。特に激下りが足にきて、帰宅後も3日以上階段がつかったです。ポッカ訓練以上に、太腿に負担がありました。
3. 全国旅行支援割引がタイミングよく始まり、雨飾山荘も割引対象となったため、今回はリーズナブルな旅となりました。